

パブリックコメント

国指定史跡下総国分寺跡附北下瓦窯跡整備基本計画（案）に関する  
意見募集結果について

市川市教育委員会 教育振興部 文化財課

(1) 実施期間 令和8年1月31日（土曜）～令和8年3月2日（月曜） 31日間

(2) 意見の応募人数と件数

意見応募人数	9（人）
件数	31（件）

(3) 意見提出方法内訳

①インターネット	4（件）
②文化財課受付	4（件）
③郵便	0（件）
④FAX	1（件）
⑤その他	0（件）

(4) 意見への対応

①案の修正	0（件）
②今後の参考	22（件）
③盛り込み済み	5（件）
④その他	4（件）

(5) 意見の概要と市の考え方

NO.	ご意見の概要	市の対応	対応
1	遺跡の敷地北側の斜面地と低地部分を買取り、ガイダンス施設を作られるよう提案します。2階建てで広くとれば他所に保管している国府台地域の遺物の展示が出来ます。	整備基本計画においては、ガイダンス施設の候補地の選定を続け、その設置までの間、ガイダンス施設の機能の一部を	②
2	ガイダンス施設の候補として北下瓦窯跡北側隣地(民有地)を検討してください。また、事業計画ではガイダンス施設の整備が最終年度の2036年以降とされていますが、2028年度をめどに設置場所を決め、2030年度中(整備計画の前半)に整備することを目指して下さい。なお、仮のガイダンス施設はプレハブならば史跡内(例えば北下台地上など)に建てられると思いますので、検討してください。	市立市川考古博物館が担うこととしております。頂いたご意見も参考に今後も、候補地の選定を含め、設置の検討を行ってまいります。	
3	「ガイダンス施設候補地選定」については、10年計画の中で、確実に「ガイダンス施設」の候補地決定、建設、活用へと歩みを進めて下さい。		
4	北下瓦窯跡が国分バス停のすぐそばであり、史跡周回の出発点として位置付けられているので、説明書最後のページの「◎将来的な整備を検討している施設」の設置場所は、この北下遺跡にすべきと考えます。北下遺跡の敷地北側の斜面地とそれに続く低地部分を公有地化し、「ガイダンス施設」を建設するのが一番良いように思います。予算面の問題もあるとは思いますが、ぜひ前向きにご検討下さい。		
5	窯跡の整備については発掘に関わった関係者や保存・修理の専門家を含めた検討グループを設け、平面や半立体方式だけでなく、露出保存や復元整備を含めた整備方法を検討すべきだと思います。またこの件に関し他の	本計画内では登窯、平窯の表示については、平面や半立体的な表示を検討しております。見学者の安全確保と、遺構の保存を行ったうえで、史跡の本質的価値を伝える方法に	②

	事例の調査や文化庁、千葉県教育委員会の協力を求めることも必要だと思います。	ついて検討を続けてまいります。	
6	国府台の地域全体の遺跡を平面的に、部分的に、地層的に広くとらえて、完成めどの10年間に今の計画をさらにブラッシュアップして魅力ある遺跡のある町としての地域の創出を期待します。	保存活用計画において、この史跡の本質的価値の一つには、「国府域に建立された国分寺」とあるように、その価値を理解するうえで、周辺の関連文化財との有機的な連携が必要不可欠であると認識しております。このため、本計画第7章第9節では地域全体における関連文化財等との有機的な連携を図るための整備と活用に関する計画を定めております。	③
7	計画書には北下瓦窯跡から国分寺跡関連地域内の見学に際しての動線が示されていますが、少なくともこれは国分尼寺跡の関連地域を含むようなものとする方が見学者には親切だと思います。また、早期に下総国分寺、国分尼寺、下総国府域などを下総国府関連遺跡群として一体的な整備計画を立てるべきだと思います。		
8	国府と国分僧寺（国分尼寺も）は、古代の地方における政治・宗教・文化の中心として密接な関係にあり、その下総国府の政庁跡も自転車で行ける距離にあるようなので、今回は「下総国分僧寺・尼寺跡」「北下瓦窯跡」の整備基本計画ではありますが、すぐ近くに政庁跡が眠っていることを意識し、将来的にはその政庁跡もセットで保存活用できるような整備をお願いします。		
9	現在の遺跡に掲示されている個々の説明板は詳細でよく分かったが下総国国府、国分寺（含 尼寺）の全体を把握できる尚潔な資料の掲示が必要と考える。 まずは住民や周辺の方が幅広く地域の貴重な財産の存在を幅広く広宣できる資料を用意することが重要であると思う。 今から広宣していくことが、長年かけてこれ		

	から遺跡を整備していくことへの一般の理解を深める為に重要であると思う。		
10	国分寺の中心伽藍について再調査を行ったうえで、可能ならば、一部の基壇、礎石などを復元整備して欲しいと思います。	国分寺の中心伽藍を含む部分は、市の公有地ではないため、土地所有者との協議により、表示方法の検討を続けることとなっております。その他展示方法につきましては頂いたご意見も参考に整備を進めてまいります。	②
11	<p>国分僧寺跡の中心伽藍については再調査を検討されていますが、七重塔基壇跡については再調査後の覆土上に、最低でも「基壇」、「心礎石」などを復元表示して下さい。できれば、武蔵国分僧寺を見学した時に、10分の1の大きさの七重の塔の模型が作られていましたので、下総国分僧寺跡でも、ぜひ七重の塔の模型の設置を要望します。また、北下遺跡の平窯や登窯などは、実物は地下に大切に保存しながら、レプリカのようなものを現在の敷地北側斜面を公有地化してそこに作るなどしてはどうでしょうか？</p> <p>とにかく、出来るだけ、写真や図面ではなく、形あるもの、触れられるものとして、展示して欲しいとおもいます。特に、市川に育つ子ども達の興味関心を引く工夫をお願いします。</p>		
12	北下瓦窯跡の整備方法の検討にあたっては現在、仮埋め戻し（土嚢の上から土を盛った状態）されている遺構を開け、再調査が必要と思われます。その際には遺構を市民に一旦、公開し、整備方法に対する市民の意見を聴くべきだと思います。	北下瓦窯跡部分については、令和4年度に埋戻し作業を完了しております。本計画の第7章第2節に定める整備事業に必要な調査に際しましては、その公開を検討してまいります。	②

13	<p>北下瓦窯跡は広い場所もあり、土の下の窯がどのように使われていたかをいきいきと表現するべく複製したり、出土品も展示と共にさわってみたり、遊べるコーナーは展開できないでしょうか。道路側の白いフェンスにイラストを用いるなども出来そうです。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。</p>	②
14	<p>基本計画について、賛成します。この整備により、市川市の魅力がさらに高まることを期待しています。</p>	<p>本計画にご賛同いただきありがとうございます。</p>	④
15	<p>市川市の歴史教育に効果的に活用できるようにするために、学校教育関係者、博物館関係者、市民団体、公募市民などからなる「(仮称)下総国分寺関連史跡整備活用検討会」を早期に立ち上げ、史跡整備と合わせて、史跡活用の在り方を検討して下さい。</p>	<p>本計画内においては、第7章第10節管理・運営に関する計画の中で、市民参加と協働運営による持続可能な史跡の保存と活用を実現するため、多様な関係者で構成する協議体の設置を検討しております。</p>	③
16	<p>史跡の整備について、広く市民や歴史ファンの方々に周知し、知名度を高めて欲しいです。 今後、市民がボランティアとして、参加できる事があれば、喜んで貢献したいと思えます。</p>	<p>本史跡の周知に関しては、本計画内においても、課題のひとつとして挙げられております。 より効果的な周知の方法について検討を行うとともに、現地を訪れることで、その価値が伝わるよう整備を進めてまいります。</p>	②
17	<p>こういった遺跡があるのを今回初めて知りました。 そもそもこの遺跡がどんなものなのかもっと市民に知らせるべきです。 市川市としては以前から周知しているのだとは思いますが、私には突然降って湧いたように感じます。</p>	<p>本史跡の周知に関しては、本計画内においても、課題のひとつとして挙げられております。 より効果的な周知の方法について検討を行うとともに、現地を訪れることで、その価値が伝わるよう整備を進めてまいります。</p>	

18	<p>北下遺跡は窯跡だけでなく、斜面上では梵鐘      鑄造遺構などの金属製品製作跡、斜面下では      現在の国分川にあたる旧流路跡周辺の祭祀      跡などが確認されています。祭祀遺跡では      「金」の文字や仏像を描いた墨書土器が確認      されていますが、これらは国分寺が祭祀に深      く関わったことを示す、貴重なものです。窯      跡以外の遺構は道路建設によって失われま      したが、関連遺物は千葉県教育委員会の施設      に保管されています。北下遺跡の本来の価      値は窯跡とともにこれらの出土品を見るこ      とによってはじめて市民に伝わります。北      下出土遺物の県教育委員会から市への移管      を実現し、市の責任で保管・再整理し、公開      展示することを検討してください。</p>	<p>今後の参考とさせていただきます。</p>	②
19	<p>北下遺跡は窯跡以外の遺構は道路建設によ      って失われましたが、関連遺物は現在千葉県      教育委員会の施設に保管されています。北下      遺跡の価値は窯跡とともに、これらの出土品      を見ることによって総合的に市民に伝える      必要があります。そこで北下出土遺物を市民      の目に触れやすくするために、県教育委員会      から市への移管を実現して下さい。市川市に      あってこそ意味があります。そして、市の責      任で保管・再整理し、公開展示して下さい。</p>		
20	<p>史跡指定地内には大木となるような樹木を      植えられないことは承知していますが、休憩      用ベンチ周辺などは遺構の有無を確認調査      したうえ、何らかの植栽は必要だと考えま      す。</p>	<p>植栽については、第7章第6      節修景及び植栽に関する計画      において定めております。史      跡の保護を前提としたうえ      で、いただいたご意見を参考</p>	②
21	<p>73 ページの「第7章 史跡整備基本計画の      “第6節 修景及び植栽に関する計画” はと      ても重要と思います。近隣住民と十分と協議      して、合意形成を図った上で、住民のプライ      バシーを十分に保護しながら、史跡と周辺地      域の景観に調和するようにして下さい。その</p>	<p>に整備を進めてまいります。</p>	

	際、やはりコンクリート・アスファルトなどのグレーインフラで囲まれた遺跡ではなく、植物、特に樹木で囲まれた落ち着いたあるグリーンインフラを軸に景観整備を行って下さい。		
22	国分僧寺跡・国分尼寺跡、さらに北下瓦窯跡の整備基本計画を立案していく段階では、委員会等で検討が重ねられるだけで、急に昨年10月に「国府サミット」が市内で開催されましたが、この意義を広く市民に知ってもらうためには、単なる“お祭り”ではなく、もっと地に足の着いた市民の学習の機会としての“講演会”、“シンポジウム”、あるいは“見学会”のようなものをもっと開催し、市民の関心と知識を高める工夫が必要と思います。これからでも構いません。ぜひこれらの開催を検討して下さい。	本計画においては、史跡指定60周年をはじめとする、節目となる時期に合わせ、重点的な広報及び記念事業を展開することとしております。	③
23	史跡からみると大変重要な所に住んでいると思います。これを住民（含子供たち）にもわかるような「絵」にした表示を西部公民館にも展示されたらと思います。	頂いたご意見をもとに、史跡を将来にうけつぐため、子供たちを含む地域の住民の方にその価値を理解いただくための整備を検討してまいります。	②
24	現地での案内版などの表記ですが、日本語だけでなく、英語での表示もお願いしたいです。必要に応じて、点字による説明も検討してください。	案内表示等の多言語化については、頂いたご意見を参考に整備の際に内容を検討してまいります。	②
25	小・中・高・大学などに入学時などに地元の埋蔵文化財（出前講義や、出来れば見学会の開催など）を伝えることに取組んでもらいたいと希望いたします。この地で学んだという記憶経験を大切に・・・→次世代に確実に歴史を繋いでゆく	学校教育との連携については、第7章第7節公開活用計画において、記載しておりますが、いただいたご意見を参考に内容について検討を続けてまいります。	②

26	<p>点として存在する遺跡をむすぶ「道」に標識だけでなく道路とその周辺にも目に見えるしるしを考案し、遺跡巡りをしながらワクワクするような工夫を凝らしてもらいたい。・・・→住宅密集地域の中であっても、つなぎの道にもセンスある工夫をすることによって、周辺の住宅の方々、学生たちも誇りと愛着が持たれるのではないのでしょうか。</p>	<p>関係機関と連携し、円滑で安全な通行を確保したうえで、来訪者にもわかりやすい案内表示となるよういただいたご意見を参考に整備を進めてまいります。</p>	②
27	<p>国分寺、国分尼寺区域内の動線は他の道路とは区別できるよう、特別な舗装や、路面マッピングを施すとともに舗装を雨水浸透性にするなど環境に配慮したものにすべきだと思います。</p>		
28	<p>古い道、今の道に通じる部分があると思いますが、各ゾーンをめぐっている道の真ん中に案内の線、色付け、案内板的内容等ある線を標識のようにふきつけ設置する。</p>		
29	<p>市川で発掘された丸木舟を展示出来るようになったら素晴らしいと思います。</p>	<p>丸木舟の出土した遺跡や道の駅いちかわの整備や運営に関しましては、本計画の対象外となっておりますが、史跡の活用にあたっては、連携した取組みを検討してまいります。</p>	④
30	<p>丸木舟（現在県立大多喜女子学校にある物）を是非、市川の方に置いていただきたいです。</p>		
31	<p>全国の道の駅の中には、地域の特徴を活かしたところがたくさんあります。たとえば、村歌舞伎のある地域では、道の駅の中に舞台設備があったり、工芸品作りの盛んな栃木県には、道の駅の敷地内に工芸品作りを体験できる「体験館」のようなものを併設しているところもあります。</p> <p>「道の駅いちかわ」には、シェア・サイクルもあります。「道の駅いちかわ」が他の道の駅より規模が小さいようなので、例えば部分的に二階建てにして、その2階部分を考古博物館の分館のようにして、地域の文化財関連の展示などを行い、自転車で隣接する文化財</p>		

を見学できるようにするなど、「道の駅いちかわ」にとって集客にもつながるような協働ができないか検討して欲しいと思います。

ここで提案すべきものではないかもしれませんが、「道の駅いちかわ」のすぐ北側にある「雷下遺跡」で発掘された日本最古の「丸木舟」を市川市で引き取り、上に書いた「道の駅いちかわ」の2階部分に展示すれば、「道の駅いちかわ」の集客にも大きくプラスになることが期待されます。そして、同時に市川で発掘された文化財を市川で展示できるという当たり前のことが実現できるのではないのでしょうか。ぜひご検討下さい。